

シアターの教育－「ジャングルブック」開催に寄せて－

平成15年度松山市民文化祭・芸術祭メイン公演実行委員長

畑野 稔

演劇教育はドラマの教育とシアターの教育で構成されている。この両者は相互に強く作用し合いながら展開され、それによって子どもに感動する心と呼び覚まし、創造的に生きる強さやしなやかさを育てる。これが演劇教育の根源的な人間教育の方法として注目を集めている所為でもある。しかし、私たちの周囲では、まだこの方法が積極的に取り入れられたという話を聞かない。ただ、「松山子ども劇場」の創立は、このような地域社会の状況を憂えるところから出発して実現したものと聞く。だから、その役割は、欠けている演劇教育の中のシアターの教育（鑑賞教育）の要素を多分に含んだ活動になっていると思う。もともとシアターの教育は「鑑賞体験」－「分析」－「創造活動への活用」というプロセスを踏みながら螺旋状に発展していくものである。「子ども劇場」の活動の歴史もこれに副った実践の積み重ねではなかっただろうか。これは好むと好まざるにかかわらず教育的営みなのである。私は「子ども劇場」が地域においてシアターの教育の側面を着実に担っていることに極めて大きな意義を見出している。これはさらに深められ進められなければならない。今回の「ジャングル・ブック」は市文化協会が挙げてシアターの教育に注目した好個の機会である。今までに無かった、プロセスの「鑑賞体験」が実験できる。その前提から活動の内容が大幅に深められ、多彩化する。これの成功は今後の活動の質的量的発展に結びつく、絶対成功させたいものである。



酒井稔（筆名畑野稔）

1929年生。愛媛大学教育学部卒。故八田元夫氏の下で演出修行。1957年「劇団こじか座」創立。今もその代表をつとめる。松山東雲高等学校演劇部顧問、愛媛演劇集団協議会会長、日本演出者協会会員、日本演劇教育連盟全国委員、全国高等学校演劇協議会顧問など、いくつかの全国役員もつとめる。